

～未来をつくる私がおとなに伝えたいこと～

2014年3月27日、東京ユニセフハウスにおいてユニセフシンポジウムが開催されました。日本ユニセフ協会は、東日本大震災緊急・復興支援活動「子どもにやさしい復興」事業を岩手、宮城、福島3県で、自治体や地域の方々のいろいろなイニシアティブをサポートしています。シンポジウムでは、学校を舞台に、震災の教訓や地域の復興や未来、そして将来の“万が一”に備えることを子どもたち自身が学び、考え、地域社会にそれぞれ異なった形で提案していることを発表しました。

発表した子どもたち 岩手県大槌町立大槌小学校6年生4人
宮城県仙台市立七郷小学校6年生4人
福島県相馬市立大野小学校6年生4人

シンポジウムでは鋭い意見が・・・

3県の子どもたちから2人ずつ登壇し、山形大学佐藤慎也先生が進行、コメンテーターとして日本プレイセラピー協会本田諒子さん、日本冒険遊び場づくり協会天野秀昭さんも参加しました。

大震災を経験して思ったこと・伝えたいことがいっぱいある。

- ・ 「家族と話していると気持ちが落ち着く」
- ・ 「友達といると楽しい」
- ・ 「人々のつながり助け合いが大事、交流をいっぱい作ること」
- ・ 「姉妹都市を遠く離れたところとつくることもいい」
- ・ 「震災を忘れないで協力しあえれば乗り越えられる」
- ・ 「世界中からも支援してもらったので、恩返しをしていきたい」
- ・ 「子どもの心は小さく傷つきやすいので、小さな変化にも気づいてほしい」
- ・ 「冷静に自分の命を守る」
- ・ 「自分より大変な思いをした人が多いので自分を抑えようしている」
- ・ 「相馬は大丈夫だよと伝えたい」など、
子どもたちの切々として発言は、胸を打たれ涙を押さえる人もいました。

復興にむけて大槌小学校佐々木^{はると}陽音くんが発言

- ・ 「小3の時、何が起きているか火災もおき現実を見きれなかった。大槌は自然がたくさんあり、きれいな環境を残して前よりももっといい町づくりを期待している。僕たちには未来も希望もある。明るく前向きに大人の人たちもなれるように」と発言しました。



- 大槌小学校は、4つの小学校と1つの中学校が仮設校舎で学んでいます。町では2016年に小中一貫校「おおつち学園」を開校予定です。
- 2012年10~11月 特別授業「未来の教室を考えよう」が3回にわたって開催され、東日本大震災で大きな被害を受けた大槌町の仮設小学校(大槌小学校・安渡小学校・赤浜小学校・大槌北小学校)の5年生約90名が参加しました。
この特別授業は日本ユニセフ協会が主催し、山形大学佐藤慎也教授と竹中工務店岡田慎氏から、居心地のいい、災害に強い未来の教室づくりの指導を受けました。
グループごとに、みんなで話し合っ「つくりたい教室」のイメージをふくらませ、レイアウトを紙に書き、模型づくりをしました。
教室の中にトイレ?災害時に多くの人が生活する。図書室に本だなはありません。本は自動的に書庫から出てくるなど。
- この結果は、大槌町教育委員会や岩手県復興局にも報告・提案し、菊池啓子校長は「子どもたちの意見が取り入れられた校舎に期待しています」とお話をされていました。

報告：岩手県ユニセフ協会
事務局長 藤原 綾子



日本ユニセフ協会は、東日本大震災緊急・復興支援活動の3年間の報告（3年レポート）
申し込みは岩手県ユニセフ協会まで（電話 019-687-4460）